

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、カナダ・ドル マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



カナダ

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

設定・運用 明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号
加入協会：(社)日本証券投資顧問業協会/(社)投資信託協会



ブラジル



【足元の金融市場の動き】 ~ ブラジル・レアルは新たな資本流入規制の導入後も続伸 ~
 ブラジルでは個人消費関連の指標に鈍化がみられ、生産関連指標でも前年比では引き続き下落傾向となっています。政策金利は11.75%となっています。ブラジル・レアルはリスク回避の動きから一時売られました。G7(先進7カ国)の円売り協調介入を契機に急反発しました。その後、同国政府は外債の短期借入金への課税を強化する新たな資本流入規制を実施しましたが、影響は限定的でブラジル・レアルは続伸しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ブラジル・レアルは金利先高観、資源高、資本流入などから堅調か ~
 景気については、利上げや自国通貨高の影響から過熱感が薄れてきており、減速するとみられます。IMF(国際通貨基金)では2011年の経済成長率を+4.5%と持続可能な成長率へ収束するとの予測を発表しました。通貨高による輸出競争力の低下が危惧される業種もありますが、物価上昇への懸念もあり、追加利上げ観測が強まっています。ブラジル・レアルは、金利先高観、資源高、流入が続く海外資本などから堅調とみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】 ~ メキシコ・ペソは高騰を続けるエネルギー価格を背景に上昇 ~
 メキシコでは小売売上高は予想を下回りましたが個人消費関連、製造業関連指標とも良好で、失業率も小幅度ながら改善しており、景気回復が続いているとみられます。足元の物価が落ち着いていることもあり政策金利は4.5%に据え置かれました。メキシコ・ペソは東日本大震災の直後はリスク回避の動きから一時下げましたが、G7による円売り協調介入後は反発し、4月には原油価格の上昇を背景に大幅に続伸しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ メキシコ・ペソは米国景気動向、エネルギー価格などから堅調か ~
 景気については米国景気回復とともに輸出が増加し、主要な外貨収入である米国を中心とした海外就労者からの送金が増加に転じています。輸出主導の回復が予想されます。IMFでは2011年の成長率が+4.6%になるとの予測を発表しました。中央銀行総裁は失業率の改善余地はまだあり、インフレ懸念はないと発言していることから、政策金利は当面据え置かれるとみられます。メキシコ・ペソは米国景気に加え、中東・北アフリカ情勢を受けて原油価格が上振れし易くなっていることもあり、堅調な展開が続くと予想されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは株高、投資家のリスク許容度回復から上昇～

トルコでは2010年10～12月期のGDPが+9.6% (季調済前年比)と再び成長が加速しました。鉱工業生産も前年比で高い伸びを続けています。政策金利は1月の利下げ以降、6.25%に据え置かれています。トルコ・リラは東日本大震災の直後はリスク回避の動きから一時下落しましたが、G7の円売り協調介入後は株高、投資家のリスク許容度の回復などから大幅に反発しました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは中東・北アフリカ情勢混乱の影響が薄れ堅調か～

景気については内需中心に拡大を続けるとみられます。足元の物価上昇率は近年にない水準まで低下しています。ただ原油価格の高騰が続いていることから引き続き動向が注視されます。好調な内需や通貨高による貿易収支の悪化が懸念されています。今後はユーロ高による輸出の増加が期待されますが、IMFでは2011年以降も小幅ながら経常収支の悪化が続くと予測を発表しています。政策金利は据え置かれるとみられます。トルコ・リラは、中東・北アフリカ情勢の混乱が続いていますが、影響が緩和していることから堅調とみられます。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは金価格の上昇を受けて堅調に推移～

南アフリカでは政策金利を5.5%に据え置くこと発表されました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、為替市場で安全資産とされる円を買う動きが広がったことから下げた後、G7による円売り協調介入が実施されたことを受けて反発しました。4月上旬にかけては金価格が上昇したことや2月の製造業生産が市場予想を上回ったこともあり、堅調に推移しました。その後は、金価格の上値が重くなったことから小反落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジでの動きか～

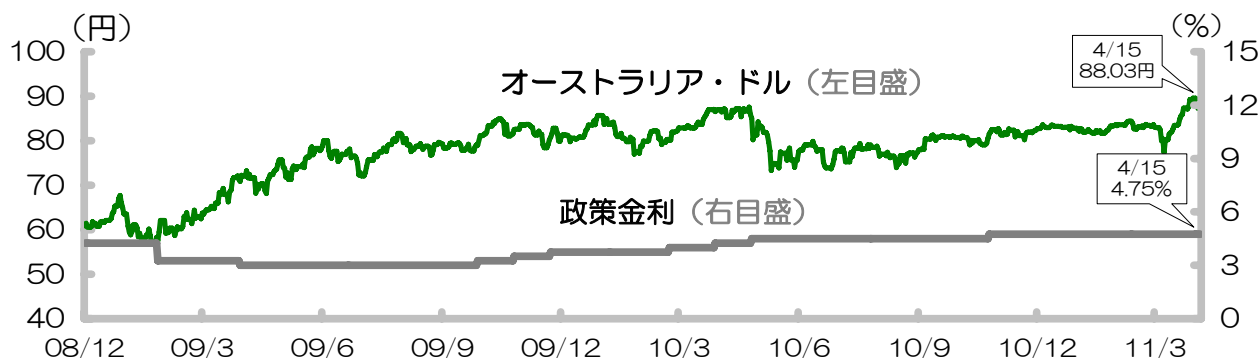
2月の消費者物価指数は+3.7% (前年比)と引き続き同国準備銀行の目標インフレ率のレンジの下限(3%)に近い水準で推移していますが、食品や原油価格の上昇が今後のインフレ要因として注目されています。景気については、これまで段階的に実施された利下げの効果から回復基調がみられています。同国準備銀行は現行の政策金利を継続しながら、景気回復のペースを確認しインフレに対する警戒を続けるとみています。南アフリカ・ランドは、金価格が高値圏で一進一退の動きとなっていることから、レンジで推移するとみています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは投資家のリスク許容度回復などから急伸 ～
 オーストラリアでは景気先行指数や住宅指標に減速感がみられましたが、雇用関連の指標、消費者信頼感指数や企業の景況感を示す指標は改善を示すなど強弱まちまちとなりました。政策金利は4.75%に据え置かれています。オーストラリア・ドルは3月中旬にはリスク回避の動きから一時下落しましたが、G7の協調円売り介入後は投資家のリスク許容度回復から急反発し、その後も続伸しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは資源価格、資源開発投資などから堅調か～
 景気については、世界景気の回復が続いていること、高水準の資源開発投資などへの期待がある一方で、中国などの新興国の金融引き締めなど経済成長率の鈍化に対する危惧もあります。金融政策については幾分引き締め姿勢を維持するものの、同準備銀行は足元の物価上昇率が政策目標(2～3%)のレンジ内で推移するとみており、政策金利は当面据え置くとみています。オーストラリア・ドルは高騰が続く資源価格、資源開発投資、株高などから堅調とみられます。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～ カナダ・ドルは原油価格の高騰や世界的なリスク許容度の回復を受けて上昇 ～
 カナダでは、1月の実質GDPが前年比+3.3%と良好な数値となり、特に製造業の好調さが顕著となりました。1月の小売売上高(前月比)は前月に引き続きマイナスとなりました。政策金利は1.00%で据え置かれました。カナダ・ドルは、東日本大震災の直後は急落する場面がみられましたが、G7による円売り協調介入の後は投資家のリスク許容度の回復や原油価格の高騰が続いたことから急上昇しました。その後は日本の原子力発電所事故の悪化懸念、欧州債務問題の再燃、原油価格上昇の一服などから上げ幅を縮めました。

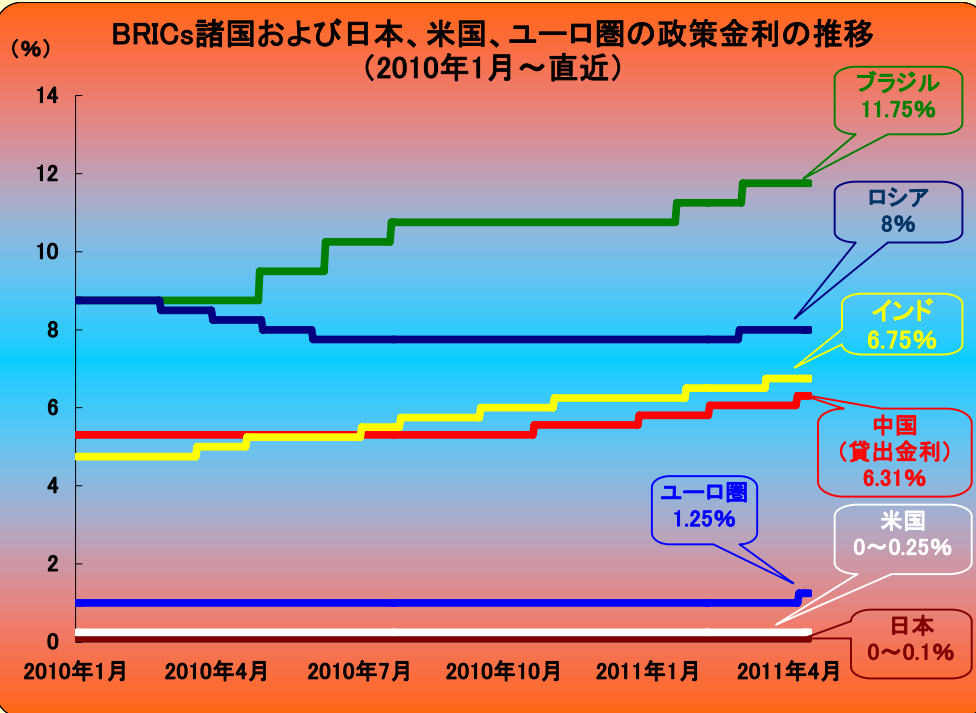
【当面の金利・為替の見通し】～ カナダ・ドルはもみ合いの展開か～
 景気については、消費関連の指標が鈍化していることや雇用の改善が遅れていることなどの懸念材料もみられる一方、3月の購買担当者指数が大幅に上昇したこともあり、依然として景気の緩やかな回復基調は続くとみています。2月の消費者物価指数の上昇率が市場予想を下回ったことや中央銀行総裁の発言を受けて早期の利上げ観測は後退しています。カナダ・ドルは、最大の貿易相手国である米国の景気回復期待がある一方、利上げ観測の後退もあり、もみ合うとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

【BRICs諸国の金融政策】

今月、IMF(国際通貨基金)から世界経済見通しが発表されました。2011年の世界経済成長率は+4.4%と高成長を予想しています。BRICs諸国を見ると、中国では+9.6%、インドでは+8.2%、ブラジルでは+4.5%、ロシアでは+4.8%と、いずれも世界平均を上回っています。一方で、各国ともインフレリスクが高まるとみられており、IMFは、2011年の消費者物価指数(CPI)の上昇率を、中国では+5.0%、インドでは+7.5%、ブラジルでは+6.3%、ロシアでは+9.3%と予想しています。いずれの国でもインフレ圧力を弱めるため、金融引き締めが実施されました。中国は昨年10月以降、預金準備率(民間銀行が預金量に応じて強制的に中央銀行に預ける無利子資金の割合)を合計3.0%引き上げ(4月15日現在)、貸出・預金金利を4回にわたって、ともに合計1%(同)引き上げました。物価上昇率と政策金利の差をみると、ブラジルはすでに政策金利を11.75%まで引き上げており、十分な対策がとられているとみられますが、ロシア(政策金利8%)、インド(同6.75%)はさらなる引き締めが必要になるとみられます。また、中国でも追加引き締めは必要とみられます。BRICs諸国が金融引き締めを本格化することによって先進国との金利差が拡大すれば、新興国通貨の上昇につながる可能性があります。



各国中央銀行HPより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。